

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 48 号(平成 29 年 11 月発行)

平成 29 年 7 月 12 日(水)に平成 29 年第 2 回定例会が開会され、同日に議案 1 件の審議が、7 月 21 日(金)に一般質問と議案 2 件の審議が行われました。

一般質問では、芳野正英議員(三重県議会選出)と小川政人議員(四日市市議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

芳野 正英 議員



○ **外国客船の誘致・受入に向けて、客船の寄港が港の振興のみならず、三重県全体や四日市市の振興につなげるため、どのように県や市と連携して取り組んでいくかお伺いしたい。**

◎ 四日市港では、来年 1 月 2 日に「コスタ・ネオロマンチカ」、6 月以降に「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港が決定した。

客船の寄港は、港ににぎわいをもたらし、地域の活性化につながることに加え、乗降客の観光消費などによる経済効果も期待されることから、その効果を四日市市はもとより、三重県全体に広げていくことが重要である。

三重県の外国人観光客に人気のある多くの観光資源を生かし、さらに地域の歴史や文化に触れ、体験できるよう、三重県と連携しながら、観光コースを船会社へ提案していきたいと考えている。

また、乗船客に四日市らしさを感じていただける歓迎イベントの実施や、地場産品の販売、地域と外国の文化交流につながるようなおもてなし、港と駅を結ぶシャトルバスの運行についても四日市市と連携して検討を進めていく。

小川 政人 議員



○ **東海豪雨時に浸水被害が生じた原因は、十四川河口部の豊栄樋門排水機場の排水能力の問題でなく、樋門操作の誤りにあるのではないかお伺いしたい。**

◎ 平成 26 年度から 27 年度にかけて実施した豊栄樋門排水機場排水計画検討業務委託では、現在のポンプ能力で十四川の水位を計画内水位に保つことができる結果となっている。

しかし、東海豪雨時に十四川流域で実際どの程度の降雨があったかは、十四川に雨量計が設置されておらず把握することはできない。洪水は、複合的な要因が重なった事象であると考えており、一概に樋門やポンプの適切な操作を怠ったことのみが原因ではないと考えている。

また、樋門の操作については、河川の水位のみでなく、海面の水位にも対応する形で色々な操作が行われるので、操作誤りかどうかについてはわからない。

四日市港管理組合としては、豊栄樋門の設置者として、東海豪雨後、浸水被害の検証を行い、再発防止に努めてきた。